

緊急避妊薬とは避妊をしないでセックスしてしまった後、またはコンドームが破けてしまった等の場合に妊娠する可能性を低くする薬です。

- 具体的にはどのようなものですか？

避妊なし、又は避妊が失敗した性行為後可能な限り早めに薬を服用します（モーニングアフターピルとも呼ばれますが、次ぎの朝まで待つ必要はありません）。理想的には72時間以内ですが、薬によっては120時間（5日）まで使用可能です。当院では現在3種類の薬（別表参照）を緊急避妊薬として処方しておりますので診察後その中から選択して頂きます。この中で現在国内にて緊急避妊薬として正式に承認されているのは「ノルレボ」のみです。また、緊急避妊薬はHIV等の性感染症を予防する効果はありません。

- 効果は？

緊急避妊薬の効果を正確に測ることは困難ですが、使用が必要な状況にある女性の通常の妊娠率は4～8%と推定されており、それを2%程に下げる効果とされます。妊娠を100%防ぐものではありません。一般的に服用が早ければ早いほど効果は高いですが、ウリプリスタールは120時間まで効果が落ちないとされています。

- 薬はどのように入手するのですか？

問診票にご記入いただき、診察後に処方いたします。内診や血液検査等は必要ありませんが、ウリプリスタールをご希望の場合は妊娠検査（尿）を処方前に実施いたします。当院にて処方可能な緊急避妊薬のうち、プラノバルとウリプリスタールは院内にて処方いたします。ノルレボをご希望の場合は院外の処方箋を発行いたしますので処方箋薬局にて処方して頂きます。健康保険の適応にはなりませんので診察料、薬代等は自費になります。

- 薬はどのように作用するのですか？

緊急避妊薬の作用は薬剤、服用時と月経周期の関係などによって異なりますが、排卵の抑制が主な作用と考えられます。その他、受精の妨げ、受精卵の着床の阻止などの作用もあるといわれています。

- 副作用は？

緊急避妊薬は一般的に安全な薬であり、処方箋なしで購入可能な国もあります。緊急避妊薬の適切な服用により重篤な副作用や死亡例などの報告はありません。主な副作用は吐きけ、腹痛、乳房の腫れ・痛み、頭痛等の一時的なものです。ほとんどの方が服用可能ですが、他の薬剤との相互作用など注意が必要な場合もありますので医師と相談の上ご使用下さい。また、すでに妊娠が確立された状態で服用してしまっても妊娠・胎児への影響はないと思われまます。

- 服用後はどうなるのでしょうか？

通常は次ぎの生理予定日の1週間前後に生理があるはずですが、次回の生理予定日を7日過ぎても生理がない場合、妊娠の可能性がありますので再度診察を受けて下さい。服用後3時間以内に嘔吐した場合、再投与が必要なることもありますので医師にご連絡下さい。服用後のセックスでの妊娠を防ぐ効果はありませんので他の定期的な避妊法の使用が必要です。

プライマリーケア東京クリニック 緊急避妊薬一覧表

種類	商品名	服用時期 (性行為後)	用量・用法	費用 [†] (税別)	備考
配合剤 [卵胞ホルモン・黄体ホルモン]	プラノバル (ノルゲストレル 0.5mg・エチニ ルエストラジオール 0.05mg)	0～7 2時間*	1回2錠 1 2時間間隔にて2回服用 (全4錠)	診察代 ¥3000 薬代 ¥400	● 院内処方
黄体ホルモン単剤	ノルレボ (レボノルゲストレル 1.5mg)	0～7 2時間*	1回1錠 (1回分のみ)	診察代 ¥3000 薬代 ¥15000～ (薬代は薬局によって異なります)	● 院外処方
黄体ホルモン受容体調節剤	ella [®] (エラ) (ウリプリスターール 30mg)	0～1 2 0時間	1回1錠 (1回分のみ)	診察代 ¥3000 薬代 ¥6500	● 院内処方 ● 国内未承認 ● 来院前に在庫確認のためご 連絡願います

* 1 2 0時間 (5日) まで使用検討可能

[†] 料金は予告なく変更することがあります